

発達 15-PF 4

# たくましい社会性に関する縦断的研究（4）

○二宮 克美・首藤 敏元・山岸 明子  
 (愛知学院大学教養部) (埼玉大学教育学部) (順天堂医療短大)

**【目的】**たくましい社会性を「円滑な対人関係がとれ、他者との関係を築き、維持・発展させ、その中で自己の要求を実現できる能力」と定義して、図1に示したモデルを考えた。調和は他者との結びつきを促す側面であり、独自性は自分らしさを發揮する側面である。クラスター分析により、調和の高低と独自性の高低によって、4つのタイプの者が存在することが確認された。

今回の報告では、小学校5年生から中学校1年生にかけての縦断データについて、この4タイプの変化の様子を中心に検討した結果を述べる。

**【方法】**<被調査者> 1994年1月当時に、小学校5年生で本調査を受けた者421名（男子218名、女子203名）で、1996年1月現在で中学校1年生に在籍した者509名（男子262名、女子247名）。このうち縦断データは388名（男子198名、女子190名）である。

<調査項目>調和の側面として、共感性（7項目）と向社会的コンピテンス（10項目）、独自性の側面として、自立感（5項目）と自己効力感（7項目）を用い、それぞれ5段階評定を求めた。

## 【結果 および 考察】

### 独自性

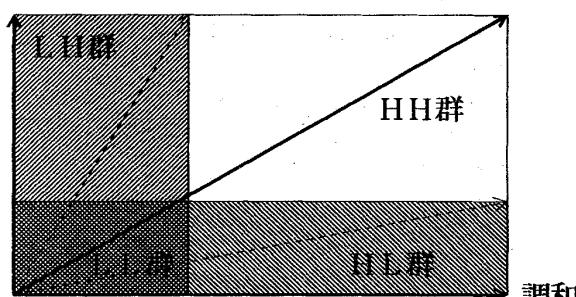


図1.たくましい社会性についてのモデル

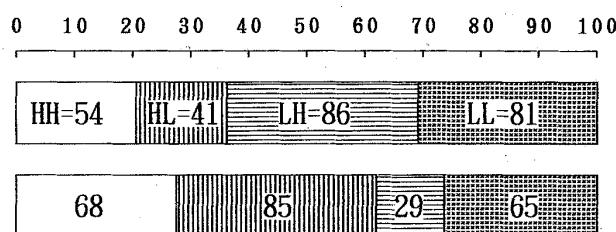


図2. 中1の因子得点に基づくグループ分け  
 N=509 (上=男子、下=女子)

### 1. 中学校1年生全体の因子分析結果

「悲しんでいたり、ひとりぼっちでいる人の話を聞くと、なんとかして助けてあげたくなる」(.78)  
 「困っている人を見ると、助けてあげたくなる」(.74)などの項目（13項目）に負荷量の高い第1因子が抽出され、調和を測る項目群と考えられる。第2因子は、「大切なことを決めなければならぬとき、うまくやっていける自信がある」(.68)  
 「人から頼りにされたとき、うまくやっていける自信がある」(.66)などの項目（11項目）に負荷量が高く、独自性を測る項目群と言える。

### 2. 因子得点の中央値に基づくグループ分け

調和および独自性の因子得点が0以上か0未満により、被調査者を4グループに分けた（図2）。男子は調和低・独自性高の人数が最も多く、女子は調和高・独自性低の人数が最も多かった。

### 3. 小5から中1のグループ変化（表1）

各グループとも、約半数は同じグループにとどまっていた。変化があまり見られないのは、HLの女子、LHとLLの男子である。一方、大きな変化が見られたのはHL⇒LLであり、調和が低くなるという変化が認められる。

表1. 小5⇒中1の4グループの縦断的变化

小5		中1	HH	HL	LH	LL	合計
HH	男子	21	5	11	4	41	
	女子	29	6	7	8	50	
	小計	50	11	18	12	91	
HL	男子	10	6	4	15	35	
	女子	15	40	1	18	74	
	小計	25	46	5	33	109	
LH	男子	8	4	36	8	56	
	女子	6	5	7	3	21	
	小計	14	9	43	11	77	
LL	男子	4	12	7	36	59	
	女子	5	11	6	16	38	
	小計	9	23	13	52	97	
合計		男子	43	27	58	63	191
		女子	55	62	21	45	183
		小計	98	89	79	108	374